

# 近現代の石巻

北上川舟運と太平洋沿岸航路の結節点として繁栄していた石巻ですが、明治維新以後は、鉄道の発達や工業化への乗り遅れなどにより、往時ほどの賑わいがなくなってきました。そのため、産業基盤・生活基盤の整備が急がれました。

交通網の整備は、仙北軽便鉄道（現在の石巻線）・宮城電鉄（現在の仙石線）の開通、道路網の整備などが行われました。

漁業のための魚市場の設置や水産加工業の振興、工場の誘致などが行われ、戦後には石巻工業港と石巻漁港（新漁港）が開港しました。

上水道の敷設や商業振興・教育機関の設置・消防や病院など住民の生活基盤の整備も行われました。

近年は、工業港の拡張・自動車専用道路の整備・下水道の整備・大学誘致・観光産業の振興・病院・福祉施設の充実など、市民生活のさらなる向上が図られています。



宮城電鉄開通記念祝賀の記念写真

▼昭和初期の仲町通



昭和37年頃の広小路



工業港の基礎工事  
(昭和37年頃)



完成したばかりの新漁港



旧石巻魚市場



完成直後の新魚市場